

建具科の授業は冒頭 修復専攻科の教室で始まっていた

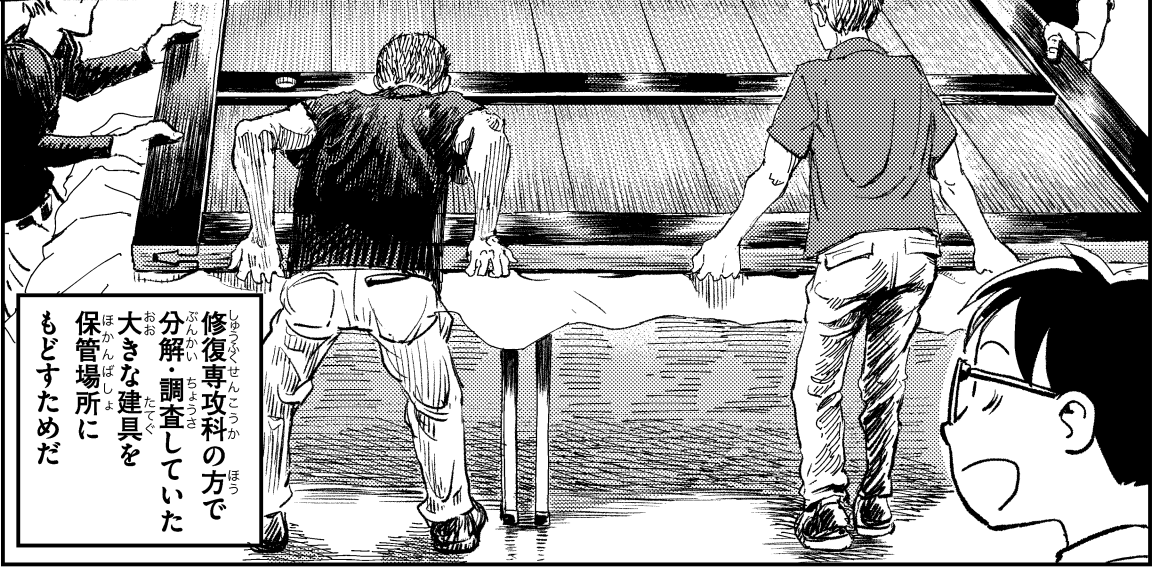
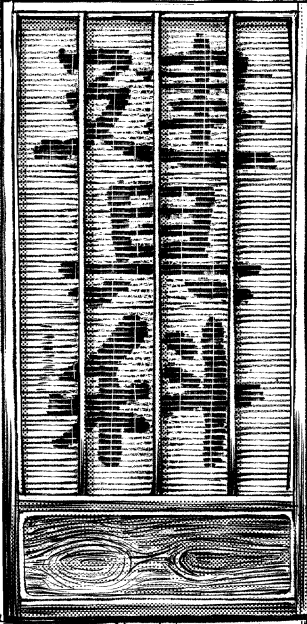
もう少し上げてください

手の脂がつかないようにね

50歳以上限定で!

ほなホワラ 混じれんねエ

エッパッパッ



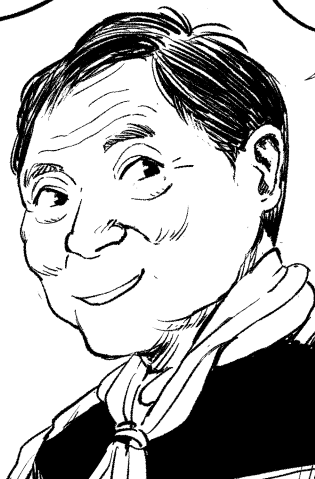
修復専攻科の方で分解・調査していた大きな建具を保管場所にまとすためだ

これは帯戸という建具です

発見場所やサイズ感から推測するに

金沢城の御殿あるいはそれ同等の場所のものではないかと言われているものなんや

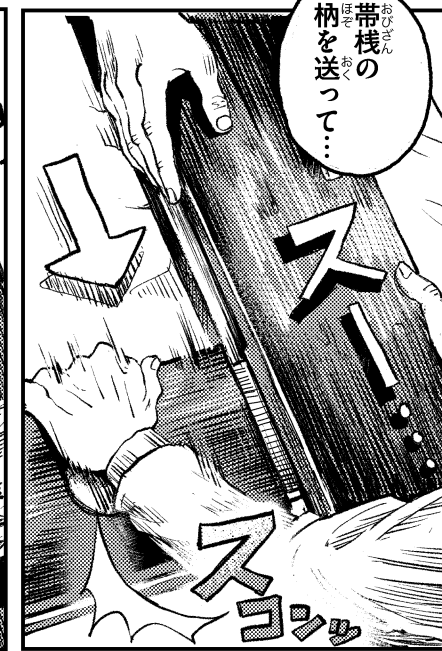
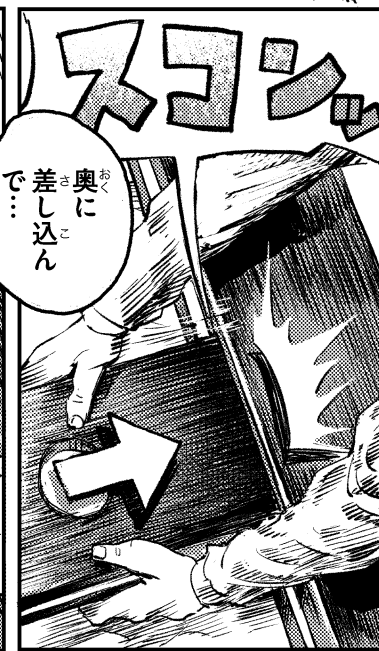
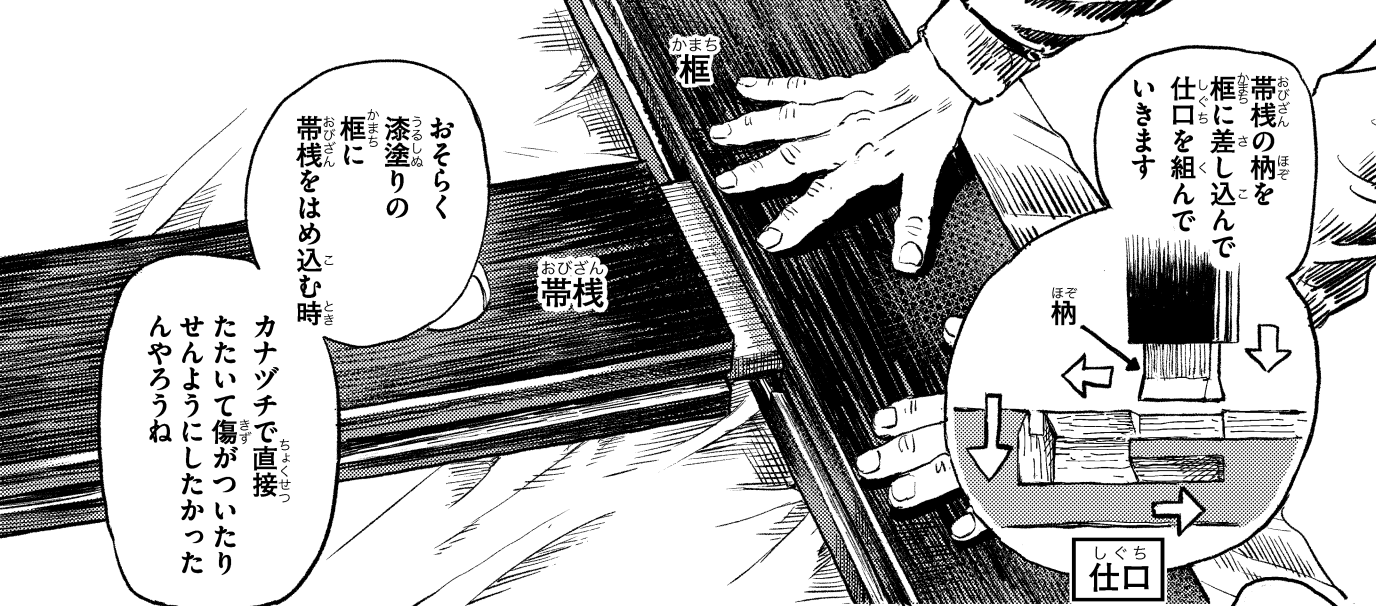
講師 中居克彦先生



※組み立て前



ここに昔の建具職人の工夫が見られますよ



建具とは

「不動産」という

動かない家の中にある
「動くもの」

日本の気候風土に
よって生まれた
可動式間仕切り
である

建具があることで
家の中に動きや
機能性、情感が
うまれる

講師

平井 靖洋先生

建具は
材が細かい上に
裏表どこから
見られるものだから

一つひとつの材を
キレイに加工して
仕口を組んで
つくるもんなや

組子になる
材をテープで
まとめて
ノコギリで
切れ込みを入れ

組子同士を
組み合わせて

切面障子

ノミで
削り出す

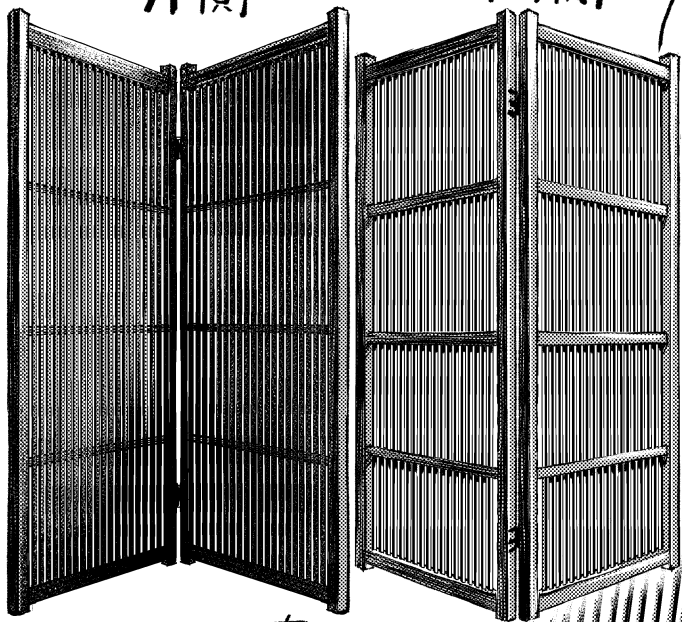
組子の角面を
削り落とし
切面取りの障子の
完成です

講師 庄田正徳先生

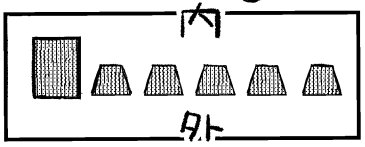
金沢ならではの
建具でいうと
キムスコやね

外側

内側



1人1面
請け負って
図面つくって
木取りして

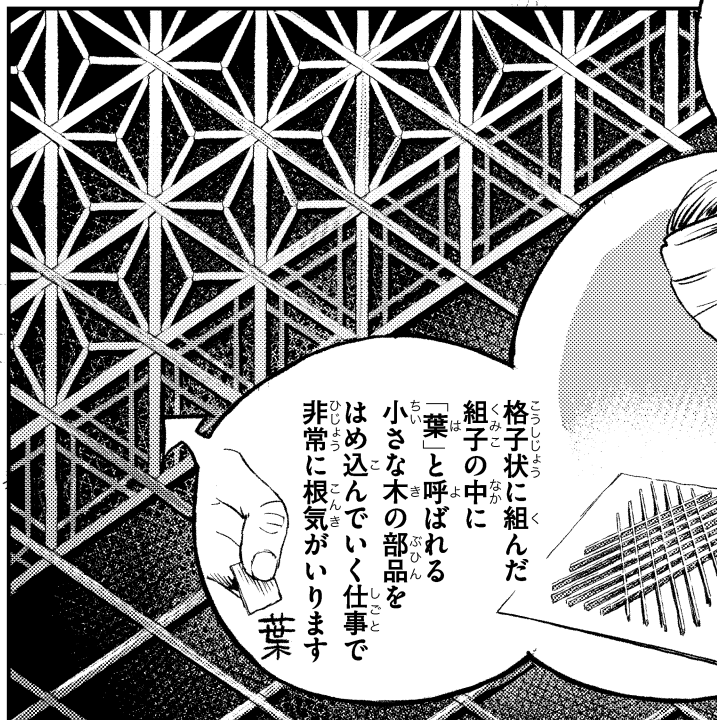


キムスコの格子は
外側より内側のほうを
細くつくってあるから
外からは見えなくても
中からは開放感があつて
光をたくさん取り入れ
られるようになってるんよ



削りと
きざみをしたら
弁柄を一本一本
丁寧に塗って
いってね

組子技術
を
応用した
組子細工も
授業でつくり
ますよ



講師 遠藤外教先生

格子状に組んだ
組子の中に
「葉」と呼ばれる
小さな木の部品を
はめ込んでいく仕事で
非常に根気がいります
葉



職大修了時に
各科でつくられる
修了制作

建具科では
生徒と講師が一丸となって
大きな建具をつくることに
挑戦している

これは
習得した技術で
製作した
舞良戸だ



細やかな仕事
取り上げられがち
建具職人だが

金沢城の
河北門や
橋爪門の大扉も
彼らの仕事なのだ

次々に
復元されていく
金沢の伝統的な
建造物

そこに
必要な技術の継承が
授業の中で
執り行われていた

金沢職人ばなし(板金科・建具科・畳科)

2023年11月10日発行

漫画家 坂上暁仁

発行 公益社団法人 金沢職人大学校
〒920-0046 石川県金沢市大和町1番1号
Tel 076-265-8311 Fax 076-225-8314
Webサイト <http://www.k-syokudai.jp/>

©金沢職人大学校2023 <禁無断複製>